

第194回地震予知連絡会重点検討課題について

タイトル「プレート境界に関するわれわれのイメージは正しいか？（その2）千島海溝」

趣旨説明者 北海道大学 谷岡勇市郎

2011年東北地方太平洋沖地震により、日本海溝沿いの太平洋プレート沈み込みに伴う巨大地震発生に関するこれまでのイメージが一変した。

第194回（平成24年2月17日開催予定）の地震予知連絡会では千島海溝沿いのプレート境界で発生する巨大地震発生を予測するための枠組みを検討するために、まずプレート境界の状態を知るための観測データの解析結果を持ち寄り、現在のプレート境界の状態把握について検討する。さらに、津波堆積物調査結果のレビューを実施することで、超巨大地震発生様式がどこまで把握できているのか検討する。また、現在までに実施されている海底構造調査結果や海底地震観測結果をレビューし、超巨大地震の発生と構造との関連を検討する。最後に様々なデータを説明することができる千島列島海溝沿いのプレート境界巨大地震のモデリングの現状を検討する。